

“鮮度一番！” No.207

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1 / 柳田国男『地名の研究』を読む 第4便
- 2 / ひとことコラム
- 2 / 男女共同参画担当者の自己紹介
- 2~4 / 運営委員会で話し合われたこと
- 4 / 編集後記

柳田国男『地名の研究』を読む

第4便

「カタビラ」

万葉学者の中西進は、『ひらがなで読めばわかる日本語』（新潮文庫）で、柳田国男のことばとして「どんな字病」を取り上げています。前便で、柳田が地名は漢字からではなく、ことばの響きから考えることが大切だと説いていると述べました。地名に限らず、柳田は日本語全般について、発音から考えないですぐに「それはどんな字を書くの？」と聞く、「どんな字病」が蔓延していると危惧していたようです。

今回はカタビラです。『地名の研究』では帷子と表記される事例から紹介しています。「どんな字病」に罹れば、帷子は夏の単衣など、衣装に関係する地名だと考えたくなくなります。昭和40年代に赤い鳥が唄った「竹田の子守唄」の歌詞の帷子は晴れ着の意味でした。柳田も思わせぶりの書き出しながらすぐに種明かしをします。漢字をあてるとするなら片平で、カタビラは、一方が山、もう一方が田野として開けた土地だと解説します。(杉野真司・H28.7.5)

・・・ひとことコラム・・・ 健康寿命が日本を救う！！

今井 寛

「健康寿命」という言葉はご存知でしょうか？健康寿命とは、健康上の問題が無い状態で日常生活が送れる期間のことです。

平成 22 年の厚生労働省の統計では平均寿命が女性は 86.3 歳、男性は 79.55 歳ですが、健康寿命は女性が 73.62 歳、男性が 70.46 歳です。女性で約 12 年半、男性で約 9 年、日常生活に制限のある不健康な期間があります。

ではなぜ健康寿命が日本を救うのでしょうか？現在、後期高齢者(75 歳以上)では年間医療費が平均の 3 倍になり、2025 年には団塊の世代が後期高齢者になり、その予算も年間 2012 年の 43.2 兆円から 73.8 兆円にまで急増するという推計が出ています、税収が下がる中、今後の大きな課題になっています。

つまりはみなさんが健康寿命を延ばすことで生活の質も上がり、さらには日本のためになるのです。毎日の運動や歌や花などの教室に通ったりして社会と繋がりながら元気で生き生きとしたまま一生を過ごせる努力を続ければ、自分自身が幸せになり、さらには今後の日本が明るくなるのではないのでしょうか。

男女共同参画担当者の自己紹介

今年度から男女共同参画の担当となりました、三条市市民部地域経営課の会田 由衣（あいだ よしえ）と申します。

現在、夫と二人の息子（4 歳と 2 歳）の 4 人家族です。育児休業を頂いて、この 4 月から仕事に復帰しました。仕事と育児の両立は思った以上に大変で、夫も協力をしてくれるのですが、毎日が慌ただしく、あっという間に過ぎていきます。子どもは待ってくれず、仕事から帰ってくるとすぐに家事をこなさなければなりません。また、子どもが体調を崩すと、予定していたスケジュール通りにいかず、なかなか自分の思うように上手くいかないことが多いです。子育てをしながら仕事をしている方々を、改めて凄いなと実感しているこの頃です。

もちろん子どもがいると、子どもの一つ一つの成長に感動したり、子どもの笑顔を見ると元気が出るなどいい面がたくさんあります。私も少しでも早く生活のペースを掴んで上手く両立していけたらと思います。

皆さんと一緒に女性と男性があらゆる分野で共に参画し、支え合う社会づくりに向けて頑張りますので、よろしくお願ひします。

運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成 28 年 7 月 6 日（水）（AM9：30～11：30）

場 所 男女共同参画センター(桜木町)



ビールの美味しい季節となりましたが、ちょっと待った！！そのダラダラ飲みが不健康のもと(自責の念)。市からでた“ちょこっと筋トレ”冊子を活用して、いつでもどこでもちょこっとトライ、健康寿命をのばすよ～ん(^^) /

次回の運営委員会は、8 月 3 日(水曜日)9：30～男女共同参画センターです。どなたでもおいでください。

にいがた女(ひと)と男(ひと)フェスティバル 2016 (6/26)

社会での「女性活躍」、家庭での「男性活躍」の演題の下、
経済ジャーナリスト治部れんげさんの話を聞いて

丸山 静江

最初に詳細にまとめられたレジメを渡され、講演が始まりました。

本日のポイント

- ・誤解されやすい「女性活躍」
- ・実際「女性活躍推進法」は何を書いているか
- ・社会での「女性活躍」の内容
- ・企業の姿勢が変わってきた
- ・女性活躍、2つの壁
- ・ケアワーク問題と家庭での「男性活躍」
- ・ワーク・ライフ・バランスに悩む男性たち
- ・「女性活躍」の最新トレンド(特に政治と男性の意識)
- ・夫婦の話し合いで希望の人生へ

女性活躍推進法でよくある誤解は、単純に「女は外で働け！」という法律ではないということです。これまで主に女性が担ってきた「育児、介護、その他の家庭生活」ですが、これからは、「男女の別を問わず(中略)家族の一員としての役割を円滑に果たしつつ」「男女の職業生活と家庭生活との円滑かつ継続的な両立」を目指していこうとするものです。つまり女性の活躍には、男性が家庭責任を果たせる環境整備が必要であると法律では明記しています。

よくある循環：夫の家庭不参加が妻の離職をもたらす仕組み

男性の長時間労働→家庭参加できない→女性が家事育児を引き受ける→
仕事に時間を使えない→昇進しない→就労意欲喪失→離職

日本の大問題 家事育児時間の夫婦格差 先進国⇒妻が2倍 日本⇒妻が6~7倍

男性の意識も世代によって異なり、都市部の大卒30代男性は「共働きは当然」と考える人が多く「家庭優先したい」希望がかなっていないのが現状です。

家事・育児・介護・そして地域のボランティアの多くを主婦(主夫)が担ってきました。彼女たちの仕事は、家庭の中でも社会の中でも「無償」とされてきました。しかし、その価値を再確認した上で、家庭内の家事・育児・介護を女性だけではなく男性も担い、地域の仕事は働いている人も分担することで、今後の日本社会を変えていく必要があります。

男性の家庭参加を促すには、決めることは男性まかせ、男性に養ってもらいたいという女性の甘えをなくす“覚悟”が必要であり、夫婦で「どういう家庭を作るか」話し合うことが大切であると締めくくられました。

2.

燕三条エフエム放送（ラヂオは〜と 76.8MHz）ワイワイ女性ひろば

●本放送 毎週木曜日 11:00~11:30 ●再放送 毎週水曜日 19:30~20:00

7月のテーマ 「ちょっと耳より・健康アップ講座」

- ①あなたは健康ですか？
- ②健康診査受けてますか？
- ③生活習慣万全ですか？
- ④健康を保つ鉄板ありますか？

メンバー：近藤晴美（三条市福祉保健部健康づくり課課長）
西方久子、野崎ミチコ、田辺とも子

世はまさに健康ブーム。健康本の出版はめじろ押し、テレビ番組も高い支持を受けています。健康づくりは国の行く末を左右すると同時に、人の生きかたに大いに影響します。100%の健康人はたぶん皆無でしょうが、それなりに、健康に老いていきたいとか、病気でも元気なら良い等々、願いは尽きません。今月は三条市の健康づくり課課長の近藤さんをゲストに、健康には大いなる関心をよせるメンバーが話し合いました。「健康診査は敬遠、我慢も努力もしたくない」こんな私に、少しやる気がめばえました。どうぞお聴きください。今月のメンバーからのリクエスト曲をご紹介します。

- ①花（中 幸介）②とりあえず（仮初のウマシカ）③真実一路（美空ひばり）
- ④夜空の星（加山雄三）

（田辺）

3.

男女共同参画「出前講座」について

三条市市民部地域経営課より「出前講座」の案内が届きました。昨年同様の内容で、当会としては、どれも受けてしまったような感があるので、申込を見送りました。かわりに12月頃行う研修会では、三条市福祉保健部健康づくり課の発行した“ちょっと筋トレ”冊子を使った筋トレの研修会をやることになりました。無理をせず、自分にあったペースで安全に行うためのアドバイスが受けられます。楽しい懇親会もあわせて行う予定ですので、どうぞ予定に入れておいてください。



編集後記：

「今年の稲刈りは早くなりそうぞ」の主人の声に、田植えがついこの間終わったばかりなのに・・・！年のせいか過ぎてゆく日々がまるで新幹線で。あとひと月後の稲刈りに向け、心も体もリフレッシュせねば・・・！ 鮮度一番207号、どうぞ隅から隅までお読みください。（原）

編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 TEL 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>